



仙台市  
若林区荒浜

みんなで  
クロマツの苗を  
植える

みんなで  
かいたつばい  
植えた松の木、  
大きくな～れ!!



# 海岸の緑 よみがえれ!

海に行くと、緑の林がどこまでも続いていたのを、おぼえていますか? 海からの強い風や、潮による塩害(えんがい)を防ぐため、浜の人たちが長い年月をかけて植え、育て、守ってきたのです。2011年3月11日の津波(つなみ)は東北の多くの海岸から、それらの木々を根こそぎ流してしまいました。

荒浜での植樹は2回目で、合わせて1000本のクロマツが被災地(ひさいち)の浜に育ちます。

呼びかけたのは「ゆりりん愛護会」。荒浜の南にある名取市関上(ゆりあげ)の海岸に木を植えたり、自然のすばらしさを子どもたちに教える「森の教室」を行ってきました。家族で苗を植えていたのが、関上小5年の小齋 拳也(こさいけんや)くん(10)、3年の愛華(まなか)ちゃん(8)、拳也くんが4年前、愛護会の「ポツ

クル」というキャラクターをかいで選ばれたのがきっかけで、海岸のそらじやキャンプに参加してきました。

関上にあった家は津波で流され、今は仮設住宅(かせつじゅうたく)にくらしています。「木を植えるのは初めて。前のような海岸がもどればいいな」と拳也くん。「今はまだ海がこわい。でも、今日はみんなといっしょに植えるの」と愛華ちゃんも、いっしょけんめい働きました。苗が元の木の高さにつつまで30年ですって。そのころ40歳くらいと聞いて、2人は「そんな大人になっているなんて想像(そうぞう)できない!」と笑いました。

ゆりりん愛護会は、地元関上の海岸で津波から残ったマツの種を取って、畑に植え、芽吹(めぶ)きさせて大切に育てているそうです。

代表の大橋信彦さん(69)は「ここで大きくなった木を、関上の海岸に帰してやる計画です。そうして荒浜から海岸の

緑につながる、元の美しい風景をよみがえらせたい」と言います。

海岸にマツなどの苗を植える活動は、被災地にいるるな場所で行われています。みなさんも参加してみたいかが? 木を植えることも立派な復興(ふっこう)の活動になり、未来

(みらい)のふるさとの風景がきっと好きになるはずですよ。



松の木の  
赤ちゃん、  
大事に育てられて  
いるんだね

